# みんなで楽しむ絵本の世界

## 子ども達が絵本に触れる場「おはなし会」

優しい声にみちびかれ、絵本の世界に夢中になる子ども達。福岡市総合図書館や分館では、ボランティアや司書による読み聞かせ「おはなし会」が開催されていることを知っていますか。0才から参加できる「赤ちゃんのおはなし会」をはじめ、年齢に合わせたプログラムが定期的に行われています。

参加グループのひとつ、「福岡おはなしの会」の活動がスタートしたのは、昭和52年。築港本町に現総合図書館の前身である福岡市民図書館が開館した翌年のことでした。以来、40年以上にわたってバトンを繋ぎ、現在は30代の子育て世代や、開館当初から参加するベテランなど、幅広い年齢層のメンバーが活動しています。

上原緑さんは、平成7年から参加するメンバーの一人。読み聞かせを行った回数は約700回以上！ 自身も子育て真っ最中という時、知り合いに「読み聞かせのボランティアがあるのだけれど」と誘われ、気軽な気持ちで行ってみたのがきっかけでした。

もともと、本が好きだったという上原さんですが、当初は「1才にも満たない子に絵本を読むのは、少し早いんじゃないかと思っていました」と話します。しかし、0才児向けのプログラムがあることを知り、考えが変わったのだそう。「子どもがお腹の中にいる頃から、お母さんは声を掛けてあげたりしますよね。絵本を読んであげることも一緒で、0才にはまだ早いなんてことはないと気づいたのです」。

広々とした西図書館の児童室。靴を脱いでゆっくり絵本が読めます

上原緑さんは西図書館の臨時職員を務めていた経験も

子ども同士でお話の世界を共有することで、一人で絵本を読む時とはまた違った世界が広がります

紙芝居舞台を自由に使えるのもここだけ!

上原さんが手にした初めての1冊は「いないいないばあ」（文/松谷みよ子、絵/瀬川康夫、童心社）。ミリオンセラーとして今でもたくさんの人に愛されている絵本は、やはり子どもを惹きつける魅力があるようです

## 本好きの仲間と集う楽しさ

「福岡おはなしの会」には定例会があります。月に2回実際に読み合わせを行い、プログラムを皆で一緒に確認。初心者もベテランに教わりながら練習ができるのだそう。約30分間のおはなし会で、どんな本を読み、どのように進行するのかという設計は特に大事だと話す上原さん。「20年以上活動をしても、大成功と言える会は少ないですよ」と苦笑いします。本の選び方も難しいところで、大人が良いと思い選んだ本でも、子ども達の反応がいまいち…なんてことも。そんな時はほかのメンバーとも情報交換を重ね、改善を続けているのだとか。活動が長く続いている理由のひとつは、本好きの仲間が集まり交流する楽しさにあるのでしょう。

「本当は人前に立ったりするのは、とても苦手だったの」と上原さん。けれども練習を重ね、読み聞かせをするたび、目の前にいる子どもたちのきらきらした瞳が忘れられなくなったのだと続けます。「絵本のページをめくるたび、物語に吸い寄せられていく瞳を見たら、私まで嬉しくなっちゃうんです」。そうしてまた次回、また……と、読み聞かせの魅力にとりつかれたのだと語ってくれました。

どんな本を読んであげたらいいかわからなくなったら、専門書コーナーをチェックしてみて!

## 親子でお気に入りの一冊を見つけよう！

総合図書館の「おはなしの家」は親子に人気ですが、分館の西図書館にもご注目を。西市民センター内にある図書館には、5000冊以上の絵本と、約620冊の紙芝居が所蔵されています。特徴は、市の分館で唯一独立した「児童室」があることです。

「シーンとした図書館に子どもを連れて行きづらい」と思ったことはありませんか。この西図書館の児童室では、少しくらい声を出して絵本を読んでも大丈夫。子どもが選んだ本を親が読んであげてもOK！ なかには小学生同士で紙芝居を読みあったりする利用者もいるそうですよ。（もちろん最低限のマナーは守ってくださいね）周りを気にせず広々とした部屋で絵本を楽しめるのは、家族での利用時に嬉しいポイントです。

そして、子どもにどんな絵本を読んであげたら良いかとお悩みの方。まずは、おはなし会に参加し絵本に興味を持つきっかけを作ってみませんか。読書相談員、読み聞かせボランティアと、プロに話を聞いてみるのもおすすめです。

「子どもの頃に出会ってほしい本を1冊でも多く届けたい」という上原さんのような、心強い味方が図書館で待っています。

### Data

**福岡西図書館**
☎ 092-884-3874
住 福岡市西区内浜1-4-39
※休館日、イベント情報は福岡市総合図書館のHPをご確認ください。

**福岡市総合図書館**
☎ 092-852-0600
住 福岡市早良区百道浜3-7-1
HP https://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/

# みんなで楽しむ絵本の世界

読み聞かせで一番大切なのは、読んであげる自分自身も楽しむことです。特に、楽しみに満ちた人の声は、自然に人の心を開くもの。スマートフォンやDVDだけではなく、家族の声で本を読んであげる時間を作るのも大切です。耳から聞いて楽しさを味わった子どもはきっと「豊かな心」「言葉や想像力、創造性」を育むと考えています。もちろん無理強いせずに、子どもの成長や個性にあった絵本を選んであげましょう。

## 上原さんに聞く 読み聞かせのすすめ

**Q どんな絵本がいいの?**

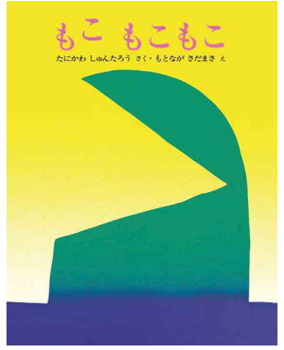
まずは、自分が好きだった絵本を選んでみては。絵がきれいだったり、耳心地の良い言葉で書かれている本は読み聞かせに最適です。迷ったら定番の絵本を選ぶのも手。20年、30年と子ども達に愛されて読み継がれている良作がたくさんです。

赤ちゃんが一番最初に認識する色は「赤」。絵がくっきり、色鮮やかな絵本がおすすめです。言葉の意味は分からなくとも、視覚や聴覚はしっかり働いているので、リズミカルな短い音の繰り返しの絵本に興味を持つことが多いですよ。2、3才ころからはシンプルでわかりやすいストーリーのものや、「繰り返し」の手法を使う「物語絵本」を中心に親子でコミュニケーションをはかりながら楽しんでみてください。

### 上原さんおすすめの0才から楽しめる本

#### 『もこもこもこ』

谷川俊太郎 作 / 元永定正 絵
文研出版




ページをめくるたびに現れる、あざやかな色彩は大人も一緒に楽しめる作品です。「しーん」と静かな場面から「もこもこ」「にょき」っと何かが生まれてくる…。"音"の楽しさに子ども達は大喜び!

**Q 子どもに本を読んであげるときのポイントは?**

子どもにとって、親の声は最も身近で、心地良いものです。言葉がきちんと届くよう、子ども達に向かって語り掛けるようにゆっくり読んであげてください。

**Q 子どもに本を好きになってもらうには?**

家の中、子どもの手の届く場所に絵本を置いてみてください。自由に読めるように何冊かあるといいですね。さらに「借りてきた図書館の絵本」ではなく「自分のための絵本」があると嬉しいもの。普段から、自然と絵本に触れられる環境を親と子で作っていくことが大切だと思っています。

\大人も楽しめる/

## 思い出の絵本

マイタウンで募集した「子どもの時に好きだった思い出の絵本や、自分の子どもに読んであげたい絵本を教えてください」というアンケート。

あなたにも大切な1冊はありますか?

### 『ぐるんぱのようちえん』

西内ミナミ 作 / 堀内誠一 絵　福音館書店

なんとなく好きだった本を母になり、娘たちに読むことができ、嬉しい限りです!色んな発想やアイディアが実現する体験をして欲しいなと思います!伝わってたらいいな!
(H・Y/30代)

ぐるんぱは、ひとりぼっちの大きなぞう。ビスケット屋さん、靴屋さん、ピアノ工場、自動車工場…。色々な仕事場で一生懸命に働きますが、つくるものが大きすぎて失敗ばかり。そんなとき、子だくさんのお母さんに出会います。子ども達の世話を頼まれたぐるんぱが考えたのは…。どんな体験も決して無駄ではないことを教えてくれます。

### 『14ひきのもちつき』

いわむらかずお 作　童心社

かわいいねずみたちが、樹木の小さな洞の中で家族を営んでいて、みんなで協力しておもちを作るというストーリーが、教育的でありつつ想像力豊かな内容で記憶に残っています。よく母親が読んでくれました。(M・B/20代)

今日は家族みんなでもちつき。おとうさん、おかあさん、おじいさん、おばあさん、子ども達みんなでぺったんとったん。個性豊かな14匹をさがすのも楽しいシリーズの1冊です。

### 『ちょっとだけ』

瀧村有子 作 / 鈴木永子 絵　福音館書店

うちは子どもが2人いるのですが、下の子が生まれる時に買ってあげてよく読んでました。大人でもホロリとします。
(H・A/40代)

弟が生まれて、なっちゃんはお姉さんになりました。お母さんは赤ちゃんのお世話で大忙し。そこで、なっちゃんはいろんなことを自分ひとりでやってみます。でも、眠くなった時だけは、どうしてもお母さんに甘えたい…。きょうだいができた子どもの思いと母親の愛情がしみじみと伝わる絵本です。

### 『ぶたぶたくんのおかいもの』

土方久功 作・絵　福音館書店

なぜ記憶に残っていたのか分からなかったのですが、40年以上経って本屋さんで復刻版と再会しました。私と同じような方が沢山いたのだなぁ、とびっくりしました。購入して、数年に一度、ふと目にして読み返しますが、やはり、記憶に残った理由は分かりません。最後のページの地図が好きだったことは覚えています。(Y・H/50代)

子ブタのぶたぶたくんはお母さんから、買い物を頼まれました。パン屋さんでパンを買い、八百屋さんでからすのかあこちゃんに会い、お菓子屋さんでこぐまくんに出会います。帰りはみんなで一緒に近道!登場人物もみんなユニーク。ぜひ声に出して読んでみて。

### 『ぐりとぐら』

中川李枝子 作 / 大村百合子 絵
福音館書店

ぐりとぐらのシリーズは私も大好きでしたが、子どもたちも大好きでボロボロになるまで読みました。大人が見ても、絵だけでも素晴らしいと思います。(S・M/40代)

### 『てぶくろ (ウクライナ民話)』

エウゲーニー・M・ラチョフ 絵 / 内田莉莎子 訳
福音館書店

もう30年以上前なので、定かではありません。「てぶくろ」という本です。手袋の中に沢山の動物が、入っていくのですが、声を変えて読んであげるのは、親の私も楽しかった思い出です。(Y・E/60代)

そのほかにも…

### 『はらぺこあおむし』

エリック・カール 作 / もりひさし 訳
偕成社

「はらぺこあおむし」です。小学1年の時に出会った本なのですが、第一子を出産した時にお祝いで貰いました。食べ物が美味しそうで彩りが豊かなイラストが子ども達もお気に入りのようです。(U・Y/30代)

元学校司書のマイタウンスタッフが選ぶ

## 大人にこそ読んでほしい絵本

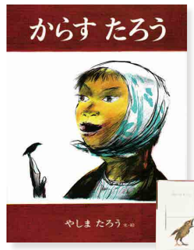
### 『おおきな きが ほしい』

佐藤さとる 文 / 村上勉 絵　偕成社

かおるほど、素敵な「ツリーハウス」を想像できる人はいないでしょう。木の中のほら穴を登っていくと、台所でホットケーキが焼ける、かわいい部屋へ。もっと登ると、りすの家や見晴らし台が!美しく描かれた四季の移ろいにうっとり。一緒に登っているようなページ構成も楽しい。あなたも、思わず言ってしまうかもしれません。「おおきな木がほしいなあ」。

### 『からすたろう』

八島太郎 文・絵　偕成社



みんなにバカにされ、いつも一人ぼっち。それでも毎日長い長い道のりを歩いて、休まず学校へ通っていた「ちび」。6年生で担任の「いそべ先生」と出会い、ちびの持つ才能が、鮮やかに輝きはじめます。ぜひ、大人の皆さんに手にしてもらいたい一冊です。そしてこの優しい、優しい本が、いつまでも読み継がれていきますように。